令和元年度　白石町立白石小学校　学校評価計画

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
ー豊かな心と健やかな体で、いきいきと学ぶ子どもの育成ー ＊目指す児童像 ・めあてをもって勉強する。　・自分の考えを持ち、進んで発表する。 ・自分や他者を大切にし、分け隔てなく接する。 ・気持ちのこもったあいさつをする。　・外で元気いっぱい遊ぶ。 ・健康や安全に気をつけ、自分の命を守る。 ＊目指す学校像：子どもの確かな学びを支える学習環境を備えた学校 ＊目指す教師像：児童・保護者・地域から信頼される教師	＊教育活動の「質を高める」「積み重ねる」 1　確かな学力を育む教育活動の推進 2　時代のニーズに対応した教育の推進 3　豊かな心を育む教育活動の推進 4　学校、家庭、地域が協働した取組の推進（コミュニティスクール） 5　健康で安心、安全な学校・家庭生活の推進 6　学校における業務改善の取組の推進

3　目標・評価

① 学校、家庭、地域の連携を深め、業務改善を推進する。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	教育目標、本年度重点目標の周知	・教育目標を、保護者90％以上、外部80％以上が周知できる。 ・コミュニティスクールの共通実践目標「あいさつ」「家庭学習」「手伝い」「自力登校」の達成率95％以上をめざす。 ・教職員の学校運営参画意識を高める。	・学校便り、HP、校内掲示などを通して周知を行うほか、各種学校行事等の挨拶の中にも組み入れて周知の方法を工夫する。また、コミュニティースクールの機能を活用し、周知に努める。 ・教育目標と整合した学級経営や分掌事務などを意識させる。また、「佐賀県教職員人事評価制度」ともリンクさせ、夏期休業中に、中間評価を行い、教育目標との整合性を含めたPDCAを行い、学校運営の活性化を図る。
学校運営	○教職員の資質向上	校内研究（算数指導）の充実	・児童一人一人が自分なりの考えを持ち表現できる授業づくりについて研究する。	・全員が授業を公開し、事前事後研修会を通してわかる授業づくりについて検討する。 ・講師招聘など指導法を学ぶ研修会を実施する。
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて、努力する気持ちがあると答える児童80％以上をめざす。 ・「佐賀に愛着を持っている」と回答する児童80％以上をめざす。	・教科の授業や学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・地域の郷土学習資料や県教委作成の資料等を活用した授業に取り組む。
教育活動	○低学年の学習環境改善	基礎学力の定着を図るための学習習慣・生活習慣の育成	・学習習慣・生活習慣の指導を繰り返し行い、80％以上の児童が定着できるようにする。	・「低学年の指導計画書」に基づいて形成的な評価を行い、補充指導及び個別指導を細やかに行う。 ・家庭学習の習慣化と明日の学習準備の定着化・生活習慣の定着を図るため、学級懇談や学級通信、お便りなどを通して、保護者へ協力を呼びかけ改善を図る。（「すこやかはなまるチェック」などの実施と活用）
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比10％削減する。	・定時退勤日（金曜日）を呼びかけ、実施を徹底する。 ・町内一斉定時退勤日（第1金曜・第3水曜）を徹底する。 ・業務を見直し、業務の改善・削減を図る。 ・業務改善に関する情報を発信したり、研修会を実施したりする。

② 確かな学力の定着を図り、ICT機器等を活用した授業改善に取り組む。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	言語活動の充実	・授業において、児童の発表や話し合いなどの言語活動を意識した活動を盛り込み、表現力の育成を図る。	・話し方、聴き方のきまりを徹底し、様々な場面において児童が互いに表現し合える場の設定を意図的に行う。 ・校内研究を通して『言語活動・表現する力』について研修を深め、算数科の授業づくりやICT活用での言語活動の手立てを探り、授業の中に盛り込んでいく。
		少人数・TTなど指導方法改善の工夫	・学習内容の確実な定着を図り、単元別のテストで全国平均（期待値）を上回るようにする。 ・算数に関して、全学年複数の指導体制で行う。	・各学年で効果的にTTや少人数指導などの授業を実践するために、単元や領域に応じた年間計画を立案し実践する。 ・毎週、学級担任にTTの学習計画表を配布し、見通しを持った準備と教材研究に生かせるようにする。 ・根拠を明確にして説明できるよう言語活動の充実を図る。 ・ノート指導を丁寧に実施し、自主的な学習につながるようにする。
		学習意欲の向上と基礎的・基本的学力の定着	・各種学力テストで全国平均、県平均を上回るようにする。 ・研究主題に基づく算数の研究を全体授業や講師等の招聘を行い推進する。	・各種学力テストの分析・考察を行い、指導法について共通理解を持つ研修を行い、実践する。。 ・算数について講師を招いての校内講習を実施し、指導法についての研究を深める。 ・確かな学力の定着を図るために、アンケートやテスト結果の分析を参考にして、児童の実態を把握し実践に生かす。 ・チャレンジタイムの内容（音読、計算）や方法を工夫し、複数の職員で指導にあたり充実
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICT機器を活用した授業の改善	教職員のICT活用率100％、活用による児童の満足度80％以上を目指す。	・ICT機器を利活用した研究授業を、年に一人1回以上行う。 ・情報リテラシー、情報モラルに関する外部講師を招聘した校内研修を行う。 ・効果的であったICT利活用例について情報交換し、データの共有化を図る。 ・授業の中に、児童がICT機器を用いた表現活動の場を設ける。
教育活動	○読書活動	豊かな読書活動の推進	・年間読書100冊に到達する児童を75％以上にする。 ・家読（うちどく）を奨励する。	・図書委員会の児童が、全校の読書量を増やすための工夫を主体的に計画し、実行できるように、活動の場を増やす。 ・多読賞や読書マスターの紹介・表彰、昨年度始めた「規定の冊数ごとに花を咲かせる掲示」を継続し、児童の読書意欲を高める。 ・家庭での読書量を増やすために、毎日図書バッグを持ち帰ることを低学年でも習慣化させる。 ・図書館便りなどで、学校での読書活動について具体的な実践を知らせる。

③豊かな心を育む教育活動を推進し、特別支援教育及び教育相談の充実に努める。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	「道徳」授業の充実	・地域、家庭との連携を図り、児童の生活に根差した道徳の授業を推進する。 ・児童の実態にあった資料を精選し、効果的な提示の仕方（ICT機器の利用、場面絵、写真、効果音など）を工夫して実践意欲を高める。	・全クラス、授業参観において授業を公開する。（ふれあい道徳の実施） ・授業後、感想や気付きなどを書かせ、学級や家庭での話題にできるようにする。 ・授業の内容を学級便りなどで前もって伝えておくようにする。
教育活動	●いじめの問題への対応	人権・同和教育の推進と充実	・安心感・自己肯定感を高めるために「自分が必要とされている」という実感を持たせる学級経営を推進する。 ・いじめの未然防止と早期発見に努める。	・学級経営案に沿って、学期毎にPDCAを行う。 ・「命」に関わる授業の実践をする。 ・学年の発達段階に応じて、情報モラルを高める授業を行う。 ・構成的グループエンカウンターの授業を計画的に実施する。 ・児童へのアンケート（心のカード）を月末毎に実施し、いじめの未然防止・早期発見に努める。
教育活動	○特別支援教育	個に応じた支援の実践	・児童・保護者の「困り感」を考慮した支援の手立てを実践する。	・支援の必要な児童に対して実態を把握し、個別の支援計画の作成や日常的児童の様子の記録を積み上げる。 ・必要に応じて校内支援委員会を開催する。 ・特別支援学級との交流活動や特別支援学級の公開授業に積極的に参加する。 ・巡回相談を活用し、児童のよりよい支援の方法を探る。
教育活動	○教育相談	教育相談の充実	・情報の共有と指導・支援の共通化を図る。 ・SC、SSW、関係機関を効果的に活用し、職員の相談や児童の個に応じた指導や支援を推進する。	・支援相談委員会を確実に実施し、気になる子の情報の共有化を図り、全職員で共通した指導に当たる。 ・地域、保護者対象の講演会を効果的に実施する。 ・月1回のほっとタイムでの各学級の効果的な取り組みを継続して紹介し、活用する。 ・教育相談週間（先生あのね週間）を実施し児童の不安感を減らす。

④健康で安全な学校・家庭生活を推進する。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	○安全教育	危機対応力の育成	・年間3回（ショート2回・ロング1回）の避難訓練を計画し、自然災害や火災、不審者侵入に対応できるように訓練を行う。	・事件や災害に対応できるように、発生場所・発生時刻などを工夫し、より実効的な訓練を計画する。 ・関係機関から提供されている資料（DVD等）を各クラスで指導する時間を確保し、学校内外における危機対応力を高めていく。
教育活動	●健康・体つくり	日常生活の充実	・基本的生活習慣（早寝、早起、挨拶、立腰、清掃、食育等）の定着を図り、90％以上の児童が実行できるようにする。 ・日常的に立腰の姿勢を保てるようにする。 ・毎日、バランスの良い朝食を摂れるように啓発する。	・はなまる・すこやかチェック（生活習慣チェック表）を学級指導に生かし、保護者への啓発に努める。 ・立腰の姿勢が保てるよう、いろいろな場で意識させていく。学校での取り組みを家庭へも紹介し、定着を図る。 ・朝食をバランス良く摂れるよう、栄養教諭による食育の授業の実施し、家庭への普及に努める。
		運動習慣改善と体力づくり	・児童の80％以上が週に3日以上外で遊ぶように啓発を行う。	・クラスでみんなで遊ぶ日を設定するように、健康委員会で呼びかける。 ・委員会活動の中で児童が計画したゲームや集団遊びを行ったり、学期ごとに業間体育を実施したりすることで、外で積極的に遊ぶ児童を増やす。

●は共通評価項目、○は独自評価項目